

令和5年度第21回

斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール選考結果について（お知らせ）

令和5年度第21回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクールには、山形県内はもとより県外・海外からも多数応募があり、小学校38校（団体）・2321首、中学校50校（団体）・4046首、高等学校40校・3433首、合計128校（団体）・9800首の作品が寄せられました。その全応募作品を対象に、第1次選考（入選200首）、第2次選考（優秀賞45首）、さらにこのたび（2月17日）、選考委員の大瀧保・田村元・結城千賀子の3氏による最終選考会が開かれ、小・中・高校の各部門2首・計6首の最優秀賞が左記のとおり決定いたしました。

なお、最優秀賞の表彰式は、令和6年5月19日（日）開催予定の第50回斎藤茂吉記念全国大会の席上にて執り行う予定です。また、最優秀賞作品・優秀賞作品を含む全入選作品を収めた「令和5年度第21回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品集」は、本年3月15日付で発行し、応募学校（団体）等に配布いたします。

主催 山形県・上山市・上山市教育委員会・公益財団法人斎藤茂吉記念館

お問合せ先 公益財団法人斎藤茂吉記念館

〒999-3101 山形県上山市北町字弁天1421

TEL 023-672-7227 Fax 023-672-2626

令和5年度第21回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール最優秀賞作品（全六首）

【小学校の部】

水色のプールのそこを見ながらねどんすすむわたしは魚

上山市立南小学校

二年 荒木沙映

春の空ついに妹小学生ろうかで一人泣いてないかな

山形市立蔵王第一小学校

六年 舟山朔空

【中学校の部】

竹刀持ち試合始まる五秒前手足が凍る時間が凍る

上山市立北中学校

二年 村上景汰朗

小説を開けば見える僕の心鏡のように映し出される

仙台市立郡山中学校

三年 鈴木陽斗

【高等学校の部】

いつかまた二人で来ようと言いながら来るはずのない海を見ている

山形県立米沢工業高等学校

一年 島貫瑛二

キュむキュむキュッ片栗粉雪踏んでみる今日だけここは私の領土

山形県立上山明新館高等学校

三年 河田馨乃

令和5年度第21回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール優秀作品（全四十五首）

■小学校の部（十二首）

クリスマスプレゼント開け中見たらスーパーのシールなんかがつかり

春の空ついに妹小学生ろうかで一人泣いてないかな

二年生リレーせんしゅになりたいなれんしゅうがんばる犬とがんばる

記録会ぼくのしんぞうおどりだすおうえんしてくれぼくの体を

水色のプールのそこを見ながらねどんすすむわたしは魚

インフルで元気なクラスどこ行った八人だけの二年三組

ゆきふらずにわけかけまわるぼくとネコたんぼぼさいてたことしの正月

もみの木のツリーと今年も背比べ背伸びでかざるてっぺんの星

虫かごにたくさんつめた野の花はすき間はないよとチョウに言ってる

燕の巣おすなおすなと大騒ぎ落ちる落ちると鳴く子もいれば

皮むくとじゅつとしるが飛んでくるみかんの鉄ぼうわたしに一げき

おばあちゃんのにゅうがん早くなおるようおいのりをしたはちまんぐうで

■中学校の部（十七首）

「ありがとう」明るい色で描かれる目には見えない心の画用紙

隠しきるサンタの正体妹に何度聞かれても「サンタはいるよ」

竹刀持ち試合始まる五秒前手足が凍る時間が凍る

「いつてきます」慌てて家出る私へと手袋わたす母の手の赤さ

小説を開けば見える僕の心鏡のように映し出される

右の手に釣り竿の揺れ感じたらリール巻くんだ地球が釣れた

道ばたにあの日に植えた思いでが咲いているよ君のひまわり

友だちに借りたまんまのホッカイロポッケの中でまだあたたかい

冬の朝止まって見えた白い息灰色の空信号の赤

友と行く平和を願う資料館無言の時間ただただ続く

友達を乗せて電車は過ぎていくごめんを言えない私を置いて

何度目の「若いっていいね」祖母の声私ははやく大人になりたい

孟蘭盆うらぼんえが作った馬と牛じいじに聞きたいその乗り心地

祖父母の家大事にされたアルバムに小さいころの私がいっぱい

将来を考えなさいと親が言う月の兎ようすればいい

放課後のみんながない教室で楽器をかまえ息をすいこむ

山形市立出羽小学校

六年 小林 凜乃

こぼやしりの

山形市立蔵王第一小学校

六年 舟山 朔空

ふなやま さく

上市市立上山小学校

二年 佃 莉琉

つくだ まりる

上市市立南小学校

五年 鏡 瑛亜留

かがみ えある

江東区立数矢小学校

二年 荒木 沙映

あらかき さえ

郡上市立大和南小学校

五年 吉田 帆花

よしだ ほのか

越谷市立大沢北小学校

四年 児玉 紗知

こだま さち

山形市立立金井中学校

二年 飯野 絢巴

いいの あやは

山形市立南中学校

二年 山口 歩夢

やまぐち あゆむ

新庄市立日新中学校

二年 村上 景汰朗

むらかみ けいたろう

仙台市立郡山中学校

三年 鈴木 陽斗

すずき はると

新潟市立赤塚中学校

一年 竹田 康史

たけだ こうし

小川町立東中学校

二年 阿敏納

あみんな

星野学園中学校

二年 久保田 真歩

くぼた まほ

学習院女子中等科

三年 梅沢 音々

うめざわ ねね

玉川学園中学部

二年 中井 穂乃佳

なかい ほのか

川辺町立川辺中学校

二年 村上 佳穂

むらかみ かほ

立命館宇治中学校

三年 谷口 由芽

たにくち ゆめ

立命館宇治中学校

一年 青山 幸浩

あおやま ゆきひろ

立命館宇治中学校

一年 吉廻 環

よしごこ たまき

立命館宇治中学校

三年 田口 憲之介

たぐち けんのすけ

立命館宇治中学校

二年 倉貫 彩良

くらぬき さら

すぐ溶けるチョコレートより渡したいずっと溶けない私の思い

大阪教育大学附属天王寺中学校

二年 片山 紗由俐 かたやま さゆり

■高等学校の部（十六首）

キュむキュむキュッ片栗粉雪踏んでみる今日だけここは私の領土

山形県立上山明新館高等学校

三年 河田 馨乃 かわだ よしの

桜咲く着なれていない制服で希望いっぱい掴む吊り革

山形県立山辺高等学校

一年 寺崎 夢香 てらさき ゆめか

テストの日開始の合図で動き出す包丁片手に夢を追って

一年 渡辺 果歩 わたなべ かほ

受け持ちの患者の病室入る前背筋伸ばして深呼吸をする

二年 大場 紗弥 おおば さや

また追試オムレツ作りで地獄みて黄色は全部卵に見える

二年 佐藤 陽菜 さとう ひな

四十分の発酵時間胸おどる二倍にふくらむ期待とパン生地

二年 原田 慎之介 はらだ しんのすけ

緊張で震える私の手を包む利用者さんのあったかい手

二年 増川 千夏 ますかわ ちなつ

記録会自分を超越るそのためにやりを投げきる群青の空

山形県立村山産業高等学校

一年 仲嶋 琉衣 なかしま るい

いつかまた二人で来ようと言いながら来るはずのない海を見ている

山形県立米沢工業高等学校

一年 島貫 瑛二 しまぬき えいじ

頑張り屋プロを夢見る君は星いつか私は届かなくなる

米沢中央高等学校

二年 鈴木 花樹 すずき かじゆ

艶やかな浴衣の君に息を呑む花火の音が頬を叩いた

青森県立八戸西高等学校

一年 高畑 道磨 たかはた とうま

自販機のまばゆい光に誘われておつかれさまのコーンポタージュ

星野高等学校

二年 倉持 美香 くらもち みか

クリスマスバイトに忙しい姉を見て人それぞれの「クリスマス」知る

学習院女子高等科

一年 依田 真利花 よだ まりか

教室の窓から眺めた初日の出君が隣に居たから夢だ

神奈川県立光陵高等学校

一年 上田 朱雀 うえだ すぎく

制服にチョークの粉とけだるさのまわりついた午後二時五分

静岡県立浜松北高等学校

一年 島寄 恵美菜 しまぎき えみな

指揮棒が上がる刹那に鳴り響く二度と聞けない青春の音

一年 水谷 真子 みずたに まこ

令和5年度第21回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品（全二〇〇首）

■小学校の部（四十八首）

クリスマスプレゼント開け中見たらスーパーのシールなんかがつかり

山形市立出羽小学校
六年 小林 凜乃 しばやしりの

冬の田に足をふみ入れ息をのむ氷柱が夕日に光る

山形市立蔵王第一小学校
六年 西山 航央 にしやま こう

春の空ついに妹小学生ろうかで一人泣いてないかな

山形市立蔵王第二小学校
六年 舟山 朔空 ふなやま さく

さつまいもまえよりつるがなくなつたむらさきへびが出てきたみたい

山形市立立山小学校
一年 原田 直澄 はらだ なおと

ふしぎだなあきをしらせるあかとんぼあついときにはどこにいるかな

山形市立立山小学校
二年 椎名 恵叶 しいな けいと

二年生リレーせんしゅになりたいたいなれんしゅうがんぼる犬とがんぼる

山形市立立山小学校
二年 佃 莉琉 つくだ まりる

小さい雪道にふつてきえてつた空中ダンスかぜといっしょに

山形市立立山小学校
三年 鈴木 青空 すすき そら

西山のまきのさんに聞いたんだホタルのために川のそうじを

山形市立立山小学校
三年 蒔田 善翔 まきた ぜんと

通学路あいさつしたら白い息葉に霜おりて朝日で光る

山形市立立山小学校
四年 平向 優菜 ひらむき ゆうな

記録会ぼくのしんぞうおどりだすおうえんしてくれぼくの体を

山形市立立山小学校
五年 鏡 瑛亜留 かがみ えある

今年もか毎年服がちぢんでくみんな冬眠しすぎたんだね

山形市立立山小学校
五年 黒田 裕彩 くらだ ゆず

水色のプールのそこを見ながらねどんどんすすむわたしは魚

山形市立立山小学校
二年 荒木 沙映 あらき さえ

町たんけん石ざきじんじやのブランコはすわるところが細くてこわい

山形市立立山小学校
二年 伊東 嵐叶 いたう らうと

カブトムシおすもいるしめすもいるコクワもいるぞコンビニの下

山形市立立山小学校
二年 井東 怜音 いたう れおん

妹はスマホゲームをしているよそれを見ながらたん歌をよんだ

山形市立立山小学校
二年 金内 鼓乃 かなうち この

いろは歌へんな字出てきたむかしの字ゐと読むんだかしこくなった

山形市立立山小学校
二年 木村 時 きむら とき

冬の空星つなげたらオリオンざキラキラひかるいっとうせいだ

山形市立立山小学校
二年 鈴木 堂真 すずき とうま

5円玉大じにもつてじん社へせかいがへいわになりますように

山形市立立山小学校
二年 武田 愛翔 たけだ あいと

学校で家学どうでもキュウリ食べぼくの体はキュウリになりそう

山形市立立山小学校
二年 水田 雄仁 みずた ゆうと

インフルで元気なクラスどこ行った八人だけの二年三組

山形市立立山小学校
二年 山川 二瑚 やまかわ にく

センターのたいへんだつたおおそうじつかれたけれどごほうびあつた

山形市立立山小学校
三年 伊藤 菜保 いたう なほ

ゆきふらずにわかけまわるぼくとネコたんぼぼさいてたことしの正月

山形市立立山小学校
三年 佐藤 涼太 さとう りようた

もみの木のツリーと今年も背比べ背伸びでかざるてっぺんの星

山形市立立山小学校
三年 枝松 湊 えだまつ みなと

お正月楽しいはずが大地震石川の人無事だといいな

山形市立立山小学校
五年 白谷 陽斗 しらたに はると

青空をみんなで飛ばす初滑り何だか前より上手な気がする

山形市立立山小学校
五年 菅沼 次郎 すがぬま じろう

きつかけは協力をした我也想会それから増えてく五年の友達

山形市立立山小学校
六年 井上 千紗 いのうえ ちさ

ひきざんが一ばんだいすきかんたんだべんきようしたらとくいになったよ

山形市立立山小学校
一年 木村 沙帆 きむら さほ

おじいちゃんといっしょにいったへアカットとてもスツキリ気もちもスツキリ

山形市立立山小学校
一年 今野 碧人 こんの あおと

ゆきがっせんいっばいあてたおかあさんにゆきだまづくりはおにいちゃんだよ

山形市立立山小学校
一年 佐藤 祐和 さとう ひろかず

地震きていっばいゆれたこわかった石川県にぼきんをしたよ

山形市立立山小学校
四年 稲毛 泰良 いなげ たいら

たのしみはつらい時でもいつだつてわかつてくれる君に会えた時

山形市立立山小学校
六年 卯野 奈々美 うの ななみ

もちつきで祖父と祖母たち息あつて小屋にひろがるおもちのにおい

山形市立立山小学校
四年 小野 葵 おの あおい

虫かごにたくさんつめた野の花はすき間はないよとチョウに言ってる

山形市立立山小学校
四年 児玉 紗知 こだま さち

あまがえる水中すいすい泳いでく川の流りにさからいながら

山形市立立山小学校
四年 稲葉 暁 いなば あきら

すき間風毛布にくるまり外を見るままだまだ帰つてこない母さん

山形市立立山小学校
四年 藤原 咲希 ふじわら さき

秋刀魚のね焦げ目はまるで秋の色焦げた香りも食欲がわく

山形市立立山小学校
五年 小俣 涼之助 こまた すずのすけ

冬の夜の国からしんしんと落ちて来たのは白いうさぎか

山形市立立山小学校
五年 廣石 創介 ひろいし そうすけ

燕の巣おすなおすなと大騒ぎ落ちる落ちると鳴く子もいれば

山形市立立山小学校
五年 吉田 帆花 よしだ ほのか

ながてつはガタンゴトンとなるんだよはしはこわいなとんでるみたい

郡上市立大和西小学校
二年 奥田 こよみ おくだ こよみ

一こだけはっぱがおつていたんだよわってみたらパキツとおとが
声かけで仲が深まる大なわとびとべなくなってもあつたかいんだ
皮むくとじゅつとしるが飛んでくるみかんの鉄ぼうわたしに一げき
梅雨入りでドシャブリ写真撮ってみた目で見た景色とちがう世界だ

ぶたいそでドキドキするけどある人の後ろ姿が勇気をくれる

一りん車六人でぎゅうつと手をにぎりみんなでせいこうできるといいな
弟のおせわをするよやさしくねいろいろな車で「たくさんあそぼ」

おばあちゃんのにゅうがん早くなおるようおいのりをしたはちまんぐうで

ランドセル底に見つけたくしゃくしゃの答案用紙そつと広げる

■中学校の部（八十二首）

寒くともはきたくはない長ズボン謎の意地張る中二の冬日

「ありがとう」明るい色で描かれる目には見えない心の画用紙

やっている妹がはだかではいはいを可愛いおしりをこっちにに向けて

いろいろな自然の中でクアオルト登山下山は楽しいものだ

雪景色白黒に染まる上山いつもの町とは違う芸術

隠しきるサンタの正体妹に何度聞かれても「サンタはいるよ」

追い込みの時期が到来十一月「フラワークラウン」フルートで吹く

三区からたすきもらつて相手抜く夢中に走った県勢一位

竹刀持ち試合始まる五秒前手足が凍る時間が凍る

筆先にたくさんの水ふくませてじわじわ広がる色と発想

この一球得意なコース空いているクロスと見せかけストレート抜く

ラフティングすごく冷たい水の中水のかけ合いあいさつとなる

ふるさとの冬に見慣れた雪の壁越えてみせるよ十五の春に

「いってきます」慌てて家出る私へと手袋わたす母の手の赤さ

文化祭勾玉作りで石けずる気分はさながら縄文人

数億人世界の中のただ一人親友の君と出会えたキセキ

大空に軌跡を残す飛行機に目をうばわれる冬の教室

雪かきの音で目覚める冬の日に出会うことなく師走過ぎ去る

小説を開けば見える僕の心鏡のように映し出される

白鳥が飛来してくる冬佐潟私の好きな故郷がある

右の手に釣り竿の揺れ感じたらリール巻くんだ地球が釣れた

学校で一番心躍るのは放課後バスケのドリブルの音

0対3夏の引退試合の敗戦は僕の後悔覚醒させる

郡上市立大和南小学校

二年 鷺見 仁 すみ じん

四年 山田 葵 やまだ あおい

五年 山田 心晴 やまだ こはる

六年 増田 うらら ますだ うらら

郡上市立大和北小学校

六年 臼田 琴香 うすだ ことか

郡上市立大和第一北小学校

一年 大井 穂乃里 おおい ほのり

二年 大中 咲季 おおなか さき

山口県歌人協会(下松市立中村小学校)

一年 西本 明花 にしもと さやか

ワシントン日本語学校

六年 横山 遙 よこやま はる

山形市立第七中学校

二年 日野 成美 ひの なるみ

山形市立金井中学校

二年 飯野 絢巴 いいの あやは

上市市立南中学校

一年 佐藤 聖奈 さとう せいな

一年 佐藤 尊 さとう たける

二年 鏡 想生 かがみ そうき

上市市立北中学校

二年 山口 歩夢 やまぐち あゆむ

二年 大沼 望叶 おおぬま もか

二年 左右田 彪之介 さゆうだ あやのすけ

二年 村上 景汰朗 むらかみ けいたろう

二年 吉田 優妃 よしだ ゆうひ

三年 柴崎 凌 しばさき りょう

三年 半田 穂佳 はんだ ほのか

新庄市立新庄中学校

三年 佐藤 花凜 さとう かりん

新庄市立日新中学校

二年 伊藤 舞 いたう まい

南陽市立宮内中学校

三年 鈴木 光琉 すずき ひかる

南陽市立沖郷中学校

二年 佐藤 茉莉花 さとう まりか

小国町立叶水中学校

三年 須貝 欧右 すがい おうすけ

山形県立東桜学館中学校

二年 小野 陽彩 おの ひいろ

仙台市立郡山中学校

三年 鈴木 陽斗 すずき はると

新潟市立赤塚中学校

一年 鬼澤 美妃 おにざわ みき

一年 竹田 康史 たけだ こうし

一年 林 莉愛 はやし りあ

三年 中野 颯斗 なかの はやと

誰一人否定されないテリトリー私は今日もそこで生きてる
お正月地震が起きてパニックだ無事でいてくれたただ願う
昼下がりボールどこどこ探すモココだよ教え喜ぶ愛犬

うつぶせで彼の写真を見つめてはアネモネ畑でくるくるくるり

実験中気づいたら我片隅でひとり興奮ミクロの世界

道ばたにあの日に植えた思いでが咲いているよ君のひまわり
コンクール嗚咽が漏れるバスの中今日も一日青春の中

友だちに借りたまんまのホッカイロポケットの中でまだあたたかい
冬の朝止まって見えた白い息灰色の空信号の赤

クラゲ浮くまるで休みの我のようふかふか浮かび流れにまかせ
友と漕ぐプール帰りの自転車で髪に残った塩素の匂い

新年の始まる時を示そうとてっぺん近づく時計らの針

鼻すするたびにセーター着せる母袖も心もくすぐたくて
寒空にぼつんとひかる三日月に勇氣をもらう熱き剣士よ

星空で友と繋ぐ手冷たくも二人の温もり心に灯る

いい加減動こうという母もまた炬燵のトリコ似たもの同士
友と行く平和を願う資料館無言の時間ただただ続く

友達を乗せて電車は過ぎていくごめんを言えない私を置いて

弟が入院をしたお正月初めて気づく賑やかな家

山手線揺れにまかせて一眠り夕日差し込む友の隣で

弟の小さな背中ランドセル走って鳴らすお守りの鈴

大晦日受験控える塾友にメッセージを打つ「応援してる」と

隣の祖母の作ったお雑煮はいつもの家の母の味です

祖母と姉正月飾り生け花で流派違えど笑顔ほころぶ

駐車場スマホ掲げて仰ぎ見る祖父も見たかな皆既月食

何度目の「若いつていいね」祖母の声私ははやく大人になりたい

プレゼントのお礼LINEで送っても祖母気づかずに既読二日後

「あの人のああいうところ素敵だね」そう言う君が一番素敵

見たいのは家族の笑顔だったのにテレビに映る崩れた家屋

誰も居ず昼に帰った家の前マスク外すとあのころの風

深夜二時思い出話浮かべつつ空を共有国際電話

孟蘭盆会僕が作った馬と牛じいじに聞きたいその乗り心地

祖母の家大事にされたアルバムに小さいころの私がいっぱい

広島の染め上げられたこの空は平和の青と過去の灰色

自転車で風を切り裂き見渡せば夕日と共に揺れるコスモス

飛鳥寺鳴らした鐘が響き渡る歴史豊かな明日香の地へと

飛鳥寺多くの仏の顔を見た阿弥陀如来像飛鳥大仏

明日香村バスに乗り込み空見上げ引き止めるよう雨が降り出す

おかえりといつも言ってくるおばあちゃん何て返そうまよう帰り道
将来を考えなさいと親が言う月の兎ようすればいい

塾終わり見上げた空にオリオン座十五の選択我が道をゆく

三点差「スパッ」とシュート決めきった勝ちに近づき拳を握る

遅刻魔のクラスメイトが遅刻した今日は大事なテスト日なのに

江戸川学園取手中学校

二年 井上 桃 いのうえ もも
二年 坂本 悠真 さかもと ゆうま
二年 正木 優莉奈 まさき ゆりな

茨城県立下館第一高等学校附属中学校

一年 八巻 結音 やまき ゆのん

さいたま市立大谷口中学校

二年 飯田 莉央 いいだ りお

小川町立東中学校

二年 阿敏納 あみんな

二年 竹下 明澄 たけした あすみ

星野学園中学校

二年 久保田 真歩 くぼた まほ

三年 梅沢 音々 うめざわ ねね

葛飾区立亀有中学校

二年 大山 樹生 おおやま いつき

二年 塚田 雄太 つかだ ゆうた

学習院女子中等科

一年 三木 紗弥子 みき さやこ

一年 山下 真惟子 やました まいこ

一年 山名 芙優 やまな ふゆ

二年 小川 里緒 おがわ りお

二年 杉山 ひなの すぎやま ひなの

二年 中井 穂乃佳 なかい ほのか

二年 村上 佳穂 むらかみ かほ

二年 矢野 紗奈 やの さな

三年 遠藤 理乃 えんどう りの

三年 柏原 楓 かしはら かえで

三年 亀井 愛 かめい あい

三年 佐藤 柑奈 さとう かな

三年 篠崎 双葉 しのぎき ふたば

三年 下野 理央 しのりお

三年 谷口 由芽 たにぐち ゆめ

三年 西村 理子 にしむら りこ

三年 本間 まどか ほんま まどか

三年 水上 麻帆 みずかみ まほ

三年 緑川 葵 みどりかわ あおい

三年 吉川 杏里 よしかわ あんり

玉川学園中部

一年 青山 幸浩 あおやま ゆきひろ

一年 吉廻 環 よしざこ たまき

一年 吉田 依千乃 よしだ いちの

中央大学附属中学校

二年 兼田 琉那 かねた るな

二年 櫛田 瑠衣 くしだ るい

二年 関口 恵太朗 せきぐち けいたろう

二年 竹田 苑菜 たけだ そのか

川辺町立川辺中学校

二年 東 ハナベル ひがし はなべる

三年 田口 憲之介 たぐち けんのすけ

三年 長谷部 流星 はせべ りゆうせい

名古屋市立八王子中学校

二年 日沖 茉那 ひおき まな

愛知工業大学名電中学校

二年 大野 誠一 おおの せいいち

元素記号パズルみたいにつなげてくカチつとはまれば地球ができる

あと一問解けば明日が楽なのに明日の自分に任せ寝た夜
放課後のみんながない教室で楽器をかまえ息をすいこむ
別れの日このまま続け演奏会涙で見えない最後の楽譜
新春にボール打つ音ひびくのみしんと静まる大原の里
雪山へヘリコプターでひとつ飛びパフパフ雪を独り占めして

どんぐりに穴をあけたらつまようじ刺して回したあの日の記おく
弟が川で拾ったミドリガメ水そうあるが名前はまだない
ただいまとそつと開けるも顔を出す二匹のすずめ飛び立たないで
すずむしが鳴いてる駅で電車待つ車椅子から三日月を指す
帰り際祖父と繋いだメッセージ変換されずひらがなのまま
石川の映像を見て思いだす金沢にいる友のことを
すぐ溶けるチョコレートより渡したいずっと溶けない私の思い
不器用な母が切った前髪はガタガタだけどうれしさ残る
電車内晴れ着姿は成人式制服姿の私は部活
正月と盆だけに会う祖母たちが毎年だんだん小さく見える

■高等学校の部(七十首)

がんばれと祖父から届いたメモの端今でも胸に貼りついたまま
遠き星の数限りなき冬山に鍋の重たく煮え立ちにけり

日本海凄みのあるよい景色自分の悩み小さく見える

あの的に一点集中矢を放つ気持ちを落ち着け自分との勝負
朝霜と寒風吹いた冬の朝いつもの道が遠く感じる

降りつもる雪の寒さでかじかんだ赤い指先じんじんと鳴る
大根が口の中から「ほくほく」と早く噛んでとこりがりうたう
キュむキュむキュッ片栗粉雪踏んでみる今日だけここは私の領土

通学時スマホをやめて前を向くこんなところに新たな気づき
左手に増えている傷比例して上がる技術包丁さばき

初実習臨地の学びが身になってちよつと近づくと看護師の夢
病棟へあがる階段不安から期待にかわる夢への一步
桜咲く着なれていない制服で希望いっぱい掴む吊り革

見返りを求めたら終わる介護職だけど嬉しい感謝の声
雪玉に君への想いつめこんで川に投げこむ溶けてなくなれ
あこがれのあの人みたくなりたくて言葉づかいを最初にまねた

テストの日開始の合図で動き出す包丁片手に夢を追って
受け持ちの患者の病室入る前背筋伸ばして深呼吸をする
なんだろう色々な物に触れてみる地面に触れる地球に触れる

また追試オムレツ作りで地獄みて黄色は全部卵に見える
四十分の発酵時間胸おどる二倍にふくらむ期待とパン生地
緊張で震える私の手を包む利用者さんのあったかい手

研ぎたての鋭い包丁手も切れて私の自信も切りきざまれる
不幸の矢今もどこかで射抜く音気付ける人で私はありたい
看護師の道を目指して得たものは人に寄り添う優しい心

四年目でやつと行けるぞ初実習膝はガタガタ足取り重く

年始め茶の間を揺らす震度七脳裏に浮かぶ十三年前
やまがたの赤いふたこのくだものを都会で見れば祖父母を想う

京都市立醍醐中学校

二年 岡田 菜奈 おかだ なな

立命館宇治中学校

二年 奥 翔太郎 おく しょうたろう
二年 倉貫 彩良 くらぬき さら
二年 櫻井 千裕 さくらい ちひろ
二年 藤原 悠聖 ふじわら ゆうせい
二年 山本 健翔 やまもと たける

大阪教育大学附属天王寺中学校

一年 青木 六花 あおき ろつか
一年 鈴木 來太 すずき らいた
一年 高田 梢江 たかだ こずえ
一年 平野 遥琉 ひらの はる
二年 石井 涼介 いしい りようすけ
二年 岡田 龍乃輔 おかだ りゅうのすけ
二年 片山 紗由俐 かたやま さゆり
二年 加藤 輝月 かとう きづな
二年 佐賀 佳紘 さが よしひろ
二年 堀内 瞬 ほりうち しゅん

山形県立山形東高等学校

一年 武田 こはる たけだ こはる
二年 渡辺 悠月 わたなべ ゆづき

山形県立霞城学園高等学校

三年 高梨 鉄翔 たかなし てっしょう

山形県立上山明新館高等学校

一年 斎藤 美羽 さいとう みう
一年 渡辺 さくら わたなべ さくら
三年 稲毛 陽大 いなげ はると
三年 鎌田 楓子 かまだ ふうこ
三年 河田 馨乃 かわだ よしの

山形県立山辺高等学校

一年 岡本 華月 おかもと かづき
一年 齋藤 真愛 さいとう まな
一年 寒河江 世莉 さがえ せり
一年 柴崎 いずみ しばさき いずみ
一年 寺崎 夢香 てらさき ゆめか
一年 東海林 亜子 とうかいりん あこ

一年 永井 舞 ながい まい
一年 丸森 心葵 まるもり ここあ
一年 渡辺 果歩 わたなべ かほ
二年 大場 紗弥 おおば さや

二年 郷野 力 ごうの りき
二年 佐藤 陽菜 さとう ひな
二年 原田 慎之介 はらだ しんのすけ
二年 増川 千夏 ますかわ ちなつ

二年 村山 菜月 むらやま なつき
二年 渡邊 ゆい わたなべ ゆい
三年 桑垣 李里 くわがき りり

専攻科一年 曾我 友花 そが ともか

山形県立東桜学館高等学校

一年 菊池 春翔 きくち しゅんと
一年 寒河江 陸 さがえ りく

かじかむ手うつむきめくる英単語一年後の冬上向くために
記録会自分を超えるそのためにやりを投げきる群青の空

いつかまた二人で来ようと言いながら来るはずのない海を見ている
差し伸べる君の掌冷たくて僕の心は温かくなる

真っ白の答案用紙に絵空事海月になって空を飛びたい

朝寝坊アラーム気づかず息を呑む担任からのモーニングコール
工作物回転させて削り取る寸法誤差は千分の一

透き通る沖繩の空青い空戦火の跡も残さぬ青さ
赤点で補習の今日のこの気持ち心沈むは夕日のようだ

頑張り屋プロを夢見る君は星いつか私は届かなくなる

艶やかな浴衣の君に息を呑む花火の音が頬を叩いた

あじさいの葉の上つたう朝露はまばたきする度溶けて消え去る

あと少し一緒にいたい気持ちだけホームに残して乗る在来線
深夜二時こたつで食べる冬みかんひやつこいひやつこい背中丸まる

雪の降る窓にも一つ溜息をつく十六は未来を探す
楷書から隷書に書体変えた夏横長の視野見え方変わる

白と黒二色しかない書道室窓の夕日の色が恋しい
HB鉛筆までは持ったけど模試の勉強まだ進まない

仮名文字に挑んだ夏の合宿は運筆震える迷い見えてる
バスの窓曇ったガラスの向こう側日の出の色が私をはげます

雪の日の登校父の助手席でローカルラジオの予報聞いている
排水機場で働く父さんは海より低地の街の守り手

雪の日のバスの轍の曲線が私の不安を映し出してる
からっ風自転車進まぬもどかしさキメた前髪どこかへ消えた

自販機のまばゆい光に誘われておつかれさまのコーンポタージュ
「また明日」交わした言葉闇に溶け見上げた空に光るオリオン

正月に明日の予定を書いた紙力のこもった「明日」という字
クリスマスバイトに忙しい姉を見て人それぞれの「クリスマス」知る

教室の窓から眺めた初日の出君が隣に居たから夢だ
校章の剥げかけている金色のかもめの羽のような挑戦

教室の夕陽射し込む黒板に凧舞い込む三者懇談
ガタゴトと人の生活流れゆく私を乗せた二両は走る

お弁当蓋を開けばそこにある私の好物母の愛情
書いては消して描いては消して「こうじゃない」背伸びの理想諦めきれず

制服にチョークの粉とけだるさのまとわりついた午後二時五分
スマホ閉じ己の目で見える友の顔液晶越しより輝く笑顔
すれちがう後輩の視線まぶしくて気付かぬふりで背すじをのばす
指揮棒が上がる刹那に鳴り響く二度と聞けない青春の音

山形県立東桜学館高等学校

二年 古沢 拓真 ふるさわ たくま

山形県立村山産業高等学校

一年 仲嶋 琉衣 なかじま るい

山形県立米沢工業高等学校

一年 島貫 瑛二 しまぬき えいじ

山形県立酒田西高等学校

二年 北嶋 綾斗 きたじま りょうと

山形県立酒田西高等学校

三年 本間 春風 ほんま はるか

山形県立酒田光陵高等学校

二年 池田 紗良 いけだ さら

惺山高等学校

二年 江口 善心 えぐち ぜんしん

米沢中央高等学校

二年 大内 皓太 おおうち こうた

青森県立八戸西高等学校

二年 鈴木 花樹 すずき かじゆ

岩手県立盛岡第三高等学校

一年 高畑 道磨 たかはた とうま

会津若松ザベリ才学園高等学校

二年 安彦 陽南 あびこ ひな

東京学館新潟高等学校

二年 阿久津 美優 あくつ みゆう

東京学館新潟高等学校

二年 平田 なな ひらた なな

東京学館新潟高等学校

一年 石崎 順馬 いしぎき かずま

東京学館新潟高等学校

一年 稲葉 美優 いなば みゆう

東京学館新潟高等学校

一年 小熊 亜美 おぐま あみ

東京学館新潟高等学校

一年 木部 颯久 きべ りゆうく

東京学館新潟高等学校

一年 近藤 愛美 こんどう まなみ

東京学館新潟高等学校

一年 高橋 麗羅 たかはし れいら

東京学館新潟高等学校

一年 間藤 煌來 まとう こうき

東京学館新潟高等学校

一年 宗村 遼 むねむら りょう

東京学館新潟高等学校

二年 神田 日陽里 かんた ひより

群馬県立桐生清桜高等学校

一年 阿部 心美 あべ ここみ

星野高等学校

二年 倉持 美香 くらもち みか

学習院女子高等科

一年 田嶋 千聖 たじま ちさと

学習院女子高等科

一年 沼上 喜久 ぬまかみ きく

学習院女子高等科

一年 依田 真利花 よだ まりか

神奈川県立光陵高等学校

一年 上田 朱雀 うえだ すぎく

岐阜県立吉城高等学校

一年 鳥野 空音 とりの そらね

静岡県立浜松北高等学校

二年 倉家 るみ くらけ るみ

静岡県立浜松北高等学校

一年 井上 真行 いのうえ まゆき

静岡県立浜松北高等学校

一年 太田 晴香 おおた はるか

静岡県立浜松北高等学校

一年 黒野 那純 くろの なずみ

静岡県立浜松北高等学校

一年 島寄 恵美菜 しまぎき えみな

静岡県立浜松北高等学校

一年 南部 琴 なんぶ こと

静岡県立浜松北高等学校

一年 松本 都 まつもと みやこ

静岡県立浜松北高等学校

一年 水谷 真子 みずたに まこ

長崎のハンカチ濡らす資料館あの夏の日を忘れるものか
切実な祈りが響く長崎に永遠に伝えよう消せぬ真実

昨日より世界が弾むA.M.8:00君に見とれてつまずいた僕
あの曲を聴くたびいつも思い出す初めての恋は片思いだった

椋山女学園高等学校

二年 橋本 茉歩

はしもと まほ

二年 山田 希

やまだ のぞみ

徳島県立池田高等学校

二年 山西 歩

やまにし あゆむ

四年

アギル・ジャンセル・

ガマリエラ・オタリア

あきる・じゃしえる・

がまりえら・おたりあ